



建造物

鎌倉期から昭和前期にわたり多くの文化財が残る長野県



国による文化財建造物の保護(重要文化財の指定)は、社寺建築を主たる対象として始まり、城郭や民家、近代洋風建築へと保護の対象が拡大されてきました。近年では近代の建造物(土木建造物を含む)も幅広くその対象となっています。また保護制度も歴史的な集落や町並みを面として捉える伝統的建造物群保存地区制度や緩やかな規制で活用が図られる登録有形文化財制度の導入などにより、多様なものになっています。

地方公共団体でも県指定及び市町村指定を行い、文化財建造物を保護しています。



ぜんこうじほんどう
善光寺本堂(国宝:長野市)
宝永4年(1707年)建築

奥行の深い平面をもつ規模の大きな建物で、独創的な形状は仏殿建築として、徳川時代中期における傑作です。



あんらくじはっかくさんじゅうのとう
安楽寺八角三重塔
(国宝:上田市)
鎌倉時代後期建築

初重に裳階をつけるため四重屋根になり、緩やかなこけら葺きの屋根、放射状の垂木など本格的な禅宗様の塔です。



まつもとじょうてんしゆ
松本城天守(国宝:松本市)

天守・乾小天守・渡櫓-文禄2年~文禄3年頃(1593年~1594年頃)建築されたと考えられる辰巳附櫓・月見櫓-寛永11年頃(1634年頃)建築
松本城天守は5棟の建物が一体となって組み合わせられた変化に富んだ内部空間となっています。



にしなしんめいぐう
仁科神明宮(国宝:大町市)
本殿・中門(前殿)-江戸時代中期建築

平安時代の終わりごろに仁科氏により祀られた神明宮で、20年に1度の式年遷宮が行われています。室町時代からの神明造りの様式を正確に伝えています。

長野県の国宝・重要文化財



bunkazai no tubo

県内には、飛鳥時代以降大陸から伝わり平安時代末までに日本に定着した和様の大法寺三重塔、鎌倉時代前期に中国から伝わった禅宗様の安楽寺八角三重塔のような全国的にみても名作とされる鎌倉期の建造物、江戸期の寺社・城郭・民家建築の建造物、明治期の学校・ホテル建築の建造物等、全国的に高いレベルの建造物が数多く残っています。



だいほうじさんじゅうのとう
大法寺三重塔(国宝:青木村)
正慶2年(1333年)建築

純和様で美しい水煙を乗せた安定した容姿しており、見返りの塔とも呼ばれています。



きゅうみかさ
旧三笠ホテル(国重要文化財:軽井沢町)
明治38年(1905年)建築

明治39年から戦中、戦後の中断期を除いて昭和45年まで営業されました。西翼の張出しや塔屋を設けて左右対称を破った全体の構成など優れた外観です。



きゅうなかごみかっこうこうしや
旧中込学校校舎(国重要文化財:佐久市)
明治8年(1875年)建築

木造2階建の擬洋風建築で、かつてはギヤマン学校と呼ばれ、屋上の八角塔をもつ洋風校舎の初期遺構として貴重です。



ほりうちけいじゅうたく
堀内家住宅(国重要文化財:塩尻市)
江戸時代中期建築

堀内家は旧堀の内村の名主を代々勤めた豪農です。県内でも有数の大型板葺民家で意匠は力強く優れています。

トピックス

- 重要文化財(建造物)の指定数
全国2,412件(含む国宝218件)
長野県86件(含む国宝5件)
- 登録有形文化財(建造物)の登録数
全国9,423件
長野県428件



長野県宝（建造物）



県内の建築文化は、寺社建築において中世前期までは、東山道沿いの地域や近畿地方に近い西南部が発達しており、その後、東信地方を中心に鎌倉の建築文化の流入がはじまりました。江戸期になりますと、諏訪出身の立川和四郎富棟の活躍から始まった立川流の彫刻が神社建築に活かされています。

長野県は「民家建築の宝庫」と言われており、民家建築では中中信地域には板屋根、東北信地域には茅葺の近世の建造物が多く残されています。近代に入りますと、和風建築のみならず洋風建築を取り入れた建造物が多く建築されました。



やひこじんじや
矢彦神社 (県宝:辰野町)

江戸時代中期～後期建築

諏訪大社独特の社殿形式をもち、諏訪立川流社殿建築の代表作の一つと言われています。



ちこうじやくしどう
池口寺薬師堂 (県宝:大桑村)

鎌倉時代後期建築

大規模な薬師像が遺存することとあわせて、鎌倉時代の文化をよく示す建築です。



うえだじょう
上田城 (県宝:上田市)

寛永2年～寛永3年(1625年～1626年)建築

小諸から入部した仙石忠政が再建した「七ツ櫓」の遺構です。



きゆうあらいけじゅうたく
旧新井家住宅 (県宝:宮田村)

江戸時代中期～後期建築

上伊那郡の中で最古の本陣建物で、移築復元されました。



つかねじほうとう
津金寺宝塔 (県宝:立科町)

鎌倉時代前期建立

3基のうち2基は、東信一帯を支配していた滋野氏が、先祖供養のため建立しました。



きゆうざこうじおみがつこうこうしゃ
旧座光寺麻績学校校舎 (県宝:飯田市) 明治6年(1873年)建築
小学校校舎でありながら1階は歌舞伎舞台として造られました。



きゆうごりょうきょく名古屋支ちょうつまごしつちようじょちようしゃ
旧御料局名古屋支庁妻籠出張所庁舎 (県宝:南木曾町)

明治32年(1899年)建築

皇室の御料林を管理するために建てられ、現在は移築復元されています。

トピックス

- ◎県宝(建造物)の指定数71件
- ◎県宝(建造物)の分類別数(件数)
 - 〈近世以前〉神社(16)、寺院(24)、城郭(1)、住宅・民家(14)、石造(6)
 - 〈近代〉学校(5)、官公庁舎(2)、住宅(2)



きゆうまつもと きょうかいしさいかん
旧松本カトリック教会司祭館

(県宝:松本市) 明治21年(1888年)建築

本格的な洋風住宅建築として建築史上の価値が高く、県内に現存する最古の宣教師館です。





重要伝統的建造物群保存地区



伝統的建造物群は、「周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値の高いもの」とされる文化財です。国では、市町村が決定した伝統的建造物群保存地区のうち特に価値が高いと判断されるものを重要伝統的建造物群保存地区に選定します。

県内には、宿場の街道沿いに町屋によって構成された質の高い町並が多く残っています。また、茅葺屋根の建物が点在する山村集落もあります。町並は、現にそこに住む人々の生活の場であり、その保存については住民の理解と協力が重要です。



しおじりし ならい 塩尻市奈良井伝統的 建造物群保存地区

昭和53年(1978年)5月31日選定

中山道の宿場町で、木曾11宿中最大の宿です。この地方に特徴的な出梁造の外観を保つ江戸末期から明治期の建物がよく残っています。



しおじりし きそひらさわ 塩尻市木曾平沢伝統的 建造物群保存地区

平成18年(2006年)7月5日選定

木曾漆器の産地です。近世後期の地割をよく残すとともに、近世以来の伝統的な町屋や塗蔵などが一体となり漆器生産の町としての特色ある歴史的風致をよく伝えています。



とうみし うんのじゅく 東御市海野宿伝統的 建造物群保存地区

昭和62年(1987年)4月28日選定

海野宿は寛永2年(1625年)に北国街道の宿駅として開設されました。宿場時代の建物・家並と明治時代以降の養蚕業で栄えた時代の建物が調和よく残されています。

なぎそまち つまごじゅく 南木曾町妻籠宿伝統的 建造物群保存地区

昭和51年(1976年)9月4日選定

中山道の木曾11宿の一つで、保存地区は宿場地区、在郷地区及びこれらの周辺の3里を含む広範囲にわたっています。宿場地区は江戸末期から明治期の面影をよく残しています。



トピックス

- ◎重要伝統的建造物群保存地区の選定数
- 全国106地区
- 長野県5地区

はくばむら あおに 白馬村青鬼伝統的 建造物群保存地区

平成12年(2000年)12月4日選定

青鬼は小規模な山村集落で、江戸後期から明治の茅葺の主屋や土蔵が建ち、石垣によって築かれた約200枚の棚田及び江戸末期の用水路が残っています。周囲の豊かな環境と一体になって歴史的景観をよく伝えています。